

YWVOB会 会報 No.16

横浜国立大学ワンダーフォーゲル部OB会

1999年12月5日発行

■ 1章 ■ 会報復刊にあたって (巻頭言)

横浜国立大学ワンダーフォーゲル部OB会 前会長 松本 正雄



YWV・OB会も、もう38年にもなるのかとびっくりするばかり。

親子で会員がいてもおかしくない。仕事で忙しく、自然に接する機会もなくなった会員もいるだろう。体力の衰えを感じている人もいるだろう。まだまだ現役に負けないと気張る人、運動のために、ハイクを楽しむ人、会えるのが楽しみな人、人生を残りの方から数えて楽しむ人、人それぞれであろう。だが、どのOB会員に出会っても、1つ言えるのは、いつまでも気が若いのと、体力と健康に自信をもって生きている様に思う。

学生時代に、仲間と思いきりしゃべり、歌い、体力の限界に挑戦し、同じ釜の飯を食っからではないかとおもう。そして、勉強一途の人は、あまり見掛けなかった様だ。

それらが、派閥よろしく、山派・ハイク派・岩派・スキー派・自然散策派・小屋派・自然観察派、それらを渡り歩く蝙蝠派・団体行動重視派・独り超然派・他サークルと掛持ち派と色んな人がいた。そして、いまだに学生達は、昔と同じ議論を繰り返している。それでも、空中分解しないで、やってきたし、やっている。残念なのは、今の学生達には、受けない様で部員数が減少化し、部としての存続が危ぶまれていることだ。

しかし、この様な多様性のもとで、卒業したOB達、若年・中年・高年合せて500名を超す大団体となった。企画をたて、参加希望者を募っても、団体行動をとるのも不可能となり、又、OB会の運営自体も財政的にも、非常に苦しくなってきた。今回、OB会組織の見直し・新会則などなど大変な仕事を若い人の努力により完成され感謝しています。OB会報も、20年振り(?)の発刊、2000年に向けて、新しい出発となる。シニアOB会の様に、縦断した期のOB会、地方別OB会、目的別OB会、趣味別OB会、懇談型OB会、家族ぐるみOB会、年齢別OB会などなど派閥・グループを大いに作って競い合う様なOB会でありたい。その活動記録・メンバー表・参加募集などが、会報を通じて発表し、交流し、広がりを持つ。

そんな夢を皆で、実現しよう!!多様性を認めるワンゲルOB会なら、必ず実現できる。少しのボランティアと健康と行動力さえあれば、まずは、参加することに意義がある。

そして、今の時代は、モチリゼーションとメールとケイタイを大いに利用して。でも、究極は、足を使う。健康の源は、手足と頭を使うこと以外にはありません。



総会の全景

■ 2章 ■ 2000年度の活動方針

横浜国立大学ワンダーフォーゲル部OB会 会長 嘉納 秀明



40周年を契機として初期のOBと若手のOBとが一体になってOB会の活性化に向かって議論を積み重ね、今期の総会で新体制を作り上げましたことは喜ばしいことです。

これから会の活性化に向かって具体的な努力をする時期になりましたので、2000年度における会の活動方針についてご説明をいたします。

1. OB会活動の目的と運営

OB会は基本的には同窓会であり、青春時代にサークル活動をともした仲間の消息を尋ね、再会し、語り合い過去を懐かしむ「心のふるさと」であります。このため、OB会は親睦を第一の目的にしなければなりません。

OBの中には卒業後もずっと山に登り、ワンゲル活動を続けている人も多くおられますし、仕事や家庭のことで一時中断があったがまた活動を再開した人や再開しようとしている人たちも大勢おられます。

すでに1期から8期までのOBは月例ワンダリングを開始して、毎回20名を越す参加者で盛況です。ワンダーフォーゲル部OB会としてこのようなワンゲル活動を行うことが特徴的な目的として取り上げられることは当然だといえます。

サークルのOB会として現役との交流も大切な活動目的になります。このため、OB会が山小屋を建設してすでに40年近く、現役活動の拠点としての役割を果たし、時には現役、OBの交流の場ともなってきました。OBとして現役の活動を見守り、支援することも大切な目的の一つであります。

以上3つが主要な目的となると考えますが、この目的を遂行するには、かなりの労力と財力を要することは、500名の会員に総会の通知を出すという行為一つを考えていただいても領けることと思います。これを円滑に運営するための十分な態勢を整えなければ会の活性化は図れません。以上をまとめますと、次のような項目になります。

1. 親睦団体としてのOB会
2. ワンゲル活動を行うOB会
3. 現役活動とともに歩むOB会
4. これらの活動を維持、発展させる運営、執行体制

2. 活動方針

紙数の制約のため、以下ごく簡単に活動方針をご説明いたします。

2. 1 親睦活動

会員名簿を更新維持してゆくことは同窓会としての基盤的事業であり、ここ2年間努力してきましたが、今回の総会に寄せられた返信ハガキ等をもとに情報を最新化してゆきます。OB会報は15号を最後に中断されていましてこれを復活して皆様にお届けしたいと思います。総会はこれまで事務的行事になるきらいがありました。来年から楽しいイベントになり、皆様の交流が豊かなものなる企画を考えたいと思います。さらに、最近のインターネットの普及にともない、これを利用できる会員も増加しております。本会も積極的にインターネット網を利用して会員の緊密化に努力したいと考えております。まとめて次のようなことを計画しています。

- ・会員名簿の維持管理、発行
- ・会報などで情報の交流
- ・総会を楽しいイベントにする
- ・インターネット網による会員の緊密化

2. 2 ワンゲル活動

OB会が行うワンダーフォーゲル活動に付いては、いろいろのことが考えられますが、基本的には山行活動を行うことで年に一度くらいはOB会全体で募集して山行を企画したいと考えます。それが定例のワンダリングに発展することを期待します。現在部活動として行われたワンダリングの記録が完全な形で整理された状態ではありません。参考記録としてのデータベースを構築することもワンゲル活動の一環であります。参考記録とともに、ワンダリングの紀行文を発表することが大切であり、それに伴う随想、思考、観察の記録こそがワンゲル文化を醸成するものであります。したがって、次のことを計画しています。

- ・定例ワンダリング
- ・ワンダリング記録の管理
- ・機関誌「スカイライン」発行
- ・ワンゲル文化を醸成

2. 3 現役活動とともに歩む活動

現在の部の状況は部員数の減少により、規模が小さくなっています。山小屋の維持管理も現役だけでは手に負えません。すでにこの夏の修理にも篤志のOBが参加協力しています。今後山小屋委員会のもとで協力にバックアップしてゆく計画です。前項で述べたように、部活動の歴史の伝承はOB会が受け持つべき役割であり、伝承しやすい形にした記録を残すことが大切と考えます。現役とOBとの交流があつてこそその歴史の伝承ですから、YWVホームページの運用を検討するなどの促進策を考えます。まとめますと次のようになります。

- ・山小屋の維持、管理
- ・部活動の歴史の伝承
- ・部活動への支援
- ・現役とOBの交流促進

2. 4 OB会の運営体制

以上の計画を遂行するための態勢は今回の会則改正、新役員の決定によってひとまず整えられました。詳しくは事業計画の方で述べられますが、行うべき仕事は次のようなものになります。

- ・名簿管理、会合準備
- ・活動企画、会報発行
- ・財源の確保と会計管理
- ・情報の蓄積と発信

3. おわりに

以上のような項目のすべてを円滑に実行してゆくにはまだまだ人手と資金が不足しています。今回の総会の準備のためにも相当回数の会合がもたれ、沢山の資料が作られ、発送作業が行われております。そのために10名余の執行部の方々の献身的な努力がなされましたことを皆様にご報告しておきます。皆様のご協力を特にお願いたします。

■ 3章 ■ 1999年 総会報告

報告：常任幹事会副幹事長
33期 藤井謙一郎

概要：今年度のYWV・OB会定期総会は、22年ぶりに会則を改正し、新体制、新役員をもって再建に取り組もうという意気込みで早くから準備が進められてきた。そのため、各期幹事を通じて会員各位に出欠ハガキの返送要請とともに、会費納入とカンパの協力を呼びかけが行われた。その結果当日出席40名と245名の会員からの委任状返信により総会が成立した。



日時：平成11年11月7日(日) 12:00~18:00

場所：横浜国立大学経営学部106号室

出席者：計 40名

1期：嘉納秀明、松本正雄、望月元雄	3名	21期：横溝真司	1名
2期：吉野大次郎、宮崎紘	2名	29期：禅知明	1名
4期：谷上俊三、郡司直樹	2名	30期：笹倉実	1名
6期：菅谷光雄	1名	33期：藤井謙一郎	1名
8期：溝田隆之、池原盛彦	2名	34期：井口健太郎、田中義人、松下淳朗、宮本薫、田村顕洋	5名
9期：日渡松男、上原昌弘	2名	36期：渡邊隆史	1名
10期：山本陽一	1名	37期：佐々健太郎、柳田史昭	2名
11期：大森常明、桜井謙一、稗田省三、安藤貞利	4名	38期：神谷信貴、細谷慎一、堀環	3名
12期：榎本吉夫	1名	(今回承認)	
14期：小口雄平	1名	39期：後藤誠史、山崎美徳	2名
18期：向井良作、山口貢三	2名	40期：覚田陽一	1名

総会議事報告：(かっこ内は担当者)

1. 開会宣言 (禅) 12:03~12:05

2. 会長挨拶 (松本会長) 12:06~12:08

「半分以上は話したことがない人で、ブランクを感じる。今回のような盛大な総会は久しぶりである。幹事の皆さん、ご苦勞様。自分の息子より年下のOBが加わっているのを見ると感慨深い。元気な間は事務局の皆さんにご面倒をおかけするが、今後ともよろしく。」

3. 松本会長表彰、挨拶 (嘉納新会長) 12:08~12:12

OB会発足以来40年近くにわたり会長を務めていただいた松本会長が、本総会をもって退任されることになったため、永年の功績を賛え、会員一同を代表して1期嘉納さんより表彰盾と記念品贈呈を行なった。

表彰状

松本正雄殿
貴殿は1961年横浜国立大学ワンダーフォーゲル部OB会発足以来40年近くにわたり会長としてその任務を全うされ会の発展に多大な寄与をされました。発足当初の組織作りから会則制定会報の発行月例ワンダリングの開始等々と会の体制づくりに尽力され今や500余名の会員を擁する大組織へと発展したのも偏に貴殿の熱意と努力の賜物によるものであります。よってここに永年の功績を賛え、衷心より感謝の意を表し、表彰いたします。

1999年11月7日

横浜国立大学ワンダーフォーゲル部OB会会員一同

OB記念品として表彰状(プレート)と登山用ストックを贈呈
 松本会長「OB会を作ったあとに小屋を建てた頃の当時の感激は忘れがたい。皆さんにはあのパワーを今後も引き継いでいって欲しい。ストックは極力使う場面が出てこないように、神棚に飾っておきたい。ありがとう。」

4. 議長選任 (禪) 12:12~12:19

満場一致で吉野大次郎(2期)が選任された。同時に総会書記として藤井(33期)が任命された。総会の成立について禪(29)より報告がなされた。

会員母数: 472名(ハガキで通知をした、所在の手がかりがあるOB会員)

出席者数: 40名(注:新OB会員含む)

委任者数: 245名(返信葉書やその他の手段で欠席かつ委任の意思表示を行ったOB)

出席者と委任者の合計285名は、会員母数の過半数となり、総会の必要定足数を充足させることから、総会が正式に成立することが満場一致で承認された。



議長 吉野氏

5. 新OB会員紹介、承認(吉野議長) 12:19~12:27

山崎美穂(39)、後藤誠史(39)、覚田陽一(40)の3名が出席、承認された。

後藤「1年留年したため、5年生として大学に残っているが、よろしく」

山崎「看護課を卒業し、県立の保土ヶ谷養護学校に勤務している」

覚田「現役でできなかったことがいろいろあるのでOB会には積極的に協力したい」

今回、加入意思不明として承認を保留された者は下記の通り

39期:赤羽剛志、池田征史、四方領、関大輔、竹内めぐみ、水野秀俊

40期:中村悦子

なお、昨年総会で、OB会加入意思不明ということで承認を保留されていた和田(38)は、今年連絡がとれず、再度保留とされた。

質疑応答

Q:新会員は総会を欠席するとOB会員になれないのは酷では?

A:なれないというわけではなく、加入または拒否の意思が今日現在確認できていないため承認を保留するだけである。



今回承認された3名(覚田氏、山崎さん、後藤氏)

6. 事業報告

昨年総会で暫定承認された、OB幹事会、総務委員会、OB小屋委員会の各担当者より、それぞれ1年間の活動内容が報告された。

- 1) 幹事会報告 (藤井) 12:28~12:30
- 2) 総務委員会報告 (田村) 12:38~12:41
- 3) 小屋委員会報告 (笹倉) 12:42~12:47
- 4) 事業報告質疑応答、承認(吉野議長) 12:47~12:48



会計報告をする柳田氏

7. 会計報告

- 1) 平成10年度報告 (笹倉) 12:48~12:50
- 2) 平成11年度中間報告(柳田) 12:50~12:53
- 3) 質疑応答、承認 (吉野議長) 12:53~12:54

休憩(現役によりカレーが配られる。) 12:54~13:13

8. 新会則の提案、承認

- 1) 改正の提案(吉野議長) 13:13~13:20

「1961年のOB会発足以来の何もないところからOB会を立ち上げた経緯が各種文献で見られる。松本会長が【OB会報0号】で会則制定の提案をし、25条の会則を作成したのが62年。何もないところから生み出したということ、目的が明確であるということ、現在の状況と似ている面がある。松本会長は当時OB会費を払おう、~をしようとか様々なことを訴えており、嘉納氏は小屋を建てようと呼びかけをしていた。その後、会報15号まで、小屋建設、OBワンダリングなどの企画運営が続いた。この間、毎年20人以上増え続けるOB会員のとりまとめに追いつくため、64年に会則の大改正が行われた。条文は一気に55条に増えた。主な目的は【増大する会員の資格区分】【執行部を事務局とする】【専門委員会をつくる】というものであった。その後77年に小改正が行われ、会員の退会について規定された。

それ以降の会則は不遇の時代が続き、会則を知らない、見たことがないOBが潜在的に増えてきた。今回の会則改正の提案は一気に98条文となり、新しく感じる方もいらっしゃるかもしれない。しかし、増大する会員数や目的に応じた会則改正であるため、その意図を汲んで話を聞いていただきたい。」

2) 新会則案の説明 (田村) 13:20~13:20

OB会運営の目的である

- ・基本サービスの充実(名簿や会報の定期発行等)
- ・その他の管理業務(小屋等)

・・・の実現を最終目標に据えると、必然的に事務局組織も大きくなり、業務も多岐にまたがる。会員数が増え、それに伴い活動や金銭出納額が増えることにより、組織の意思決定のメカニズムを現実に近いものにする必要がある。今回の改正の目的はもっぱら組織についての改正であり、目的などの総論趣旨は殆ど改めていない。

主な改正点は

- ・事務局が常任幹事会、拡大幹事会、総務委員会、小屋委員会となる。
- ・顧問、支援委員、監査役等を新設され、役員席数が増える。
- ・会員の種類を整備し、通常の会員は正会員に統一される。
- ・総会開催の定足数の変更をする。
- ・年会費を2,000円に改訂する。 といったものである。



新会則を説明する田村氏

3) 新会則案の質疑応答、承認 (吉野議長)

Q: 卒業生の定義が曖昧ではないか? ある人は追いコン、ある人は学校の卒業など、時代によって異なる。

A: 定義付けは必要だろう。今後の検討課題である。

Q: 退部者の管理はどうするのか

A: 期別幹事が行う。

Q: 関西支部は約20万円のお金を持っているが、支部会計が一般会計に組み込まれると没収か?

A: 支部の財政は今のところ独立会計とし、OB会会計に組み込むことは想定していない。どちらかといえば、支部に対するプラスの援助を想定している。今後の検討課題である。

Q: 準会員の立場は今後どうなるのか?

A: 拒否の意思がなければ正会員に自動昇格となる。拒否の意思表示がある場合はOB会員とならない。

Q: 総会の成立と“期”の関係を具体的に説明せよ。

A: 40期あれば、21期分の各期一名以上の出席または委任の確認が最低要件となる。幅広い期の意思を尊重したいからである。どこかの期がかけると成立しないという意味ではない。

Q: 会計年度を変えた理由(4月→3月を10月→9月に)

A: OB総会が事業年度の区切りとすると、会計年度がずれているのは何かと不都合である。今年の変則18ヶ月会計年度となる。

Q: 6条は卒業まで在籍しない人に対して厳しい

A: 本人の卒業時にOB会加入意思を確認する。なお、これは期別幹事の役割となる。

質疑応答の後、裁決をとり、その結果改正案は原案どおり承認可決された。



司会 禰氏

9. 新OB会役員紹介・承認 13:40~13:50

承認可決された改正会則に則り、会長以下関西支部長(再任)を含め20名の新役員が選任された。同時に理事である、支部幹事1名、支援委員5名が紹介された。【役員・理事一覧後掲】

Q: 副会長はいないがどうするのか

A: 今回は空席とする。

10. 新体制の活動基本方針(嘉納新会長) 14:12~14:23

嘉納会長より、今後のOB会活動の基本方針が説明された。

11. 事業計画案紹介 (禰) 14:23~14:52

幹事会計画(藤井副幹事長)、総務委員会計画(田村委員長)、OB小屋委員会計画(笹倉委員長)それぞれ各分野毎に年度計画が説明され、質疑応答を行った。

質疑応答 Q: 総務は人数足りるのか?

A: 全ての事業計画を遂行するには不足。そのため例えば会報の編集に携われる人等は個別に募集したい。

Q: 返信葉書には50円切手を予め貼付した方が返信率が上がるのでは?

A: 今までではそうしていたが、返信がない場合はその50円全くの無駄金となるため、試行的に切

手は返信者が貼る形式とした。今回の試行の結果と予算の動向を踏まえて再検討する。

Q: 名簿はいつももらえるのか? 年賀状に間に合うのか

A: 本日配布する予定であったが、いまだに情報訂正の葉書が返信されてきている。そのため、近い内に締め切って作成にかかりたい。もちろん年賀状には間に合うように配布する。

Q: 総会案内は予算項目にないが、どうするのか?

A: 会報として送る。

Q: 事業計画は会費 1000 円と見込んでいるのか、2000 円か

A: 今回提示したものは旧会則に則っているので 1000 円

Q: スカイラインの 10 万円補助を解説せよ

A: スカイラインは希望者が購入する (前回は 1500 円/冊) 仕組みだったが、いずれにせよ赤字が生じる。スカイラインの編集に携わるのは現役部員であるが、OB会として以前から 10 万円の補填を行っている。労働力が絶対的に不足していることもありOB会の積極支援の一手段として金銭的補助を行いたい。

1 2. 閉会宣言 (禅) 14:52~14:55

(休憩) 14:55~15:30

1 3. 懇親会およびスライド上映会 15:30~18:00

1) 出席会員の紹介 (全員)

1 期望月氏の乾杯に続き、禅幹事長の進行で、1 期から順に各期紹介が行われた。近況報告、思い出話、抱負や懺悔、関西支部報告、シニアOB会報告等も交えて賑やかかつ和やかにひとときとなった。また来年はホテルで同期会と総会を同時に盛大に開こうなどという元気な声も出た。

2) スライド上映会 (現役)

恒例のスライドによる現役活動報告には、山が映る度に会場から声がかかった。嘉納会長が若かりし頃作詞・作曲した「冬の山」という哀調のメロディの披露があり、若い会員を驚かせたあと、全員で「みはるかす」の大合唱、最後は 8 期溝田氏の大シュプレヒコールで締め、平成 11 年度総会は幕を閉じた。

以上

(参考) 役員一覧 (任期 3 年)

役職	期	氏名
会長	1 期	嘉納 秀明
関西支部長	3 期	渡辺 亨英(再任)
幹事長	29 期	禅 知明
副幹事長	33 期	藤井謙一郎
常任幹事	30 期	笹倉 実(兼)
会計幹事	37 期	柳田 史昭
顧問	6 期	菅谷 光雄(兼)
同	8 期	池原 盛彦
総務委員長	34 期	田村 顕洋
総務担当幹事委員	34 期	影井 康弘
同	36 期	渡邊 隆史
同	37 期	柳田 史昭(兼)
OB 小屋委員長	30 期	笹倉 実(兼)
OB 小屋担当幹事委員	4 期	郡司 直樹
同	6 期	菅谷 光雄(兼)
同	8 期	池原 盛彦(兼)
同	14 期	鈴木 道夫
同	18 期	向井 良作
同	30 期	宮崎 英樹
同	31 期	伊藤 明広
同	37 期	佐々健太郎
同	38 期	堀 環
同	39 期	後藤 誠史
監査役	2 期	吉野大次郎

理事一覧 (任期なし)

役職	期	氏名
支援委員	10 期	山本 陽一
	14 期	小口 雄平
	33 期	横井 英記
同	34 期	田中 義人
同	35 期	土方 康裕
関西支部幹事	2 期	宮崎 結
期別幹事	1-40 期	各期 1 名

* 支援委員は常任幹事会により任命される。
* 支部幹事は支部会員の互選、又は支部長の指名により任命される。
* 期別幹事は期会員の互選、又は常任幹事会の指名により任命される。

廣田国太郎 代表 禅 知明

通年 月日

年 02.4.14 定額貯金 2143,480 年 12.4.14
02.4.14 " 214,348 年 12.4.14
年 02.11.28 " 227,000 年 9.11.28
03.1.13 " 500,000 年 10.1.13
03.12.21 " 300,000 年 10.12.21
3384,828

満期

年 12.4.14 引当 1,683,020 引当 336,600
引当 1,346,400
受取額 3,489,900

12.4.14
引当 168,302 引当 336,600
引当 134,640
引当 348,990

2000.12.14 引当 1,683,020 引当 336,600

■ 4 章 ■ 会計報告

全体・総務委員会会計：37期 柳田 史昭
OB 小屋委員会会計：30期 笹倉 実

1. 2000 年度会計中間報告(特記以外は平成 11 年 11 月 29 日現在) (99.4.1-99.11.20)

<p>99.3.31 (1)1998 年度残高①¥683,842</p> <p>(内訳)現金..... ¥ 14,907 郵便口座..... ¥ 409,817 郵便貯金(普)..... ¥259,118</p> <p>(99.4.1~99.11.20) (2)2000 年度収入(1999.11.20 現在)②¥1,069,132</p> <p>(内訳)預金利子..... ¥ 584 98 年度 OB 会費 ¥3,000 寄付金(幹事会より)..... ¥667 99 年度 OB 会費 (11/20 まで) ¥214,000 カバ金 ¥726,000 その他(前納分など)..... ¥ 33,000 12th カバ金(総会時受け取り) .. ¥ 11,881 総会会費(40 名分)..... ¥ 80,000</p>	<p>(3)2000 年度支出(1999.11.20 現在) ③¥612,762</p> <p>(内訳) 五八木土産代(4/29) ¥1,050 ✓ 苗名小屋改修代 ¥427,000 ✓ 振り込み手数料 ¥ 735 ✓ 五八木[額]代 ¥1,029 ✓ 総会案内発送費(36th 渡邊) ¥7,295 ✓ " (33th 藤井) ... ¥64,228 ✓ " (30th 笹倉) ... ¥36,810 ✓ 記念品代等..... ¥19,300 ✓ 昼食費(カレー代) ¥ 20,000 ✓ 総会飲食代費 ¥35,315 ✓</p> <p>(4)現在の残高.....(①+②-③)¥1,140,212 (99.11.20)</p> <p>(内訳)現金 ¥99,693 郵便口座 ¥807,817 郵便貯金(普) ¥232,702</p>
---	--

注)1998 年度とは 1998.4.1-1999.3.30 の期間を指し、2000 年度とは、1999.4.1-2000.9.30 の期間を指す。会計年度の変更に伴い変則となる(1999 年度は欠年扱い)。

2. 2000 年度予算

1. 全体会計(総務委員会会計を含む)

(単位:円)

収入の部		支出の部	
項目	予算額	項目	予算額
1.OB 会費	400,000	1.会報作成・発送費 (第 16 号・名簿分) (第 17 号分)	400,000 (290,000) (110,000)
2.寄付金	200,000	2.総会開催費	50,000
3.11 月 20 日までの収入(②)	1,069,132	3.HP 等の調査費	20,000
		4.スライド制作補助	100,000
		5.役員等会合費	25,000
		6.名簿管理環境整備費	15,000
		7.企画活動費	10,000
		8.OB 小屋委員会へ移し替え分⑦	230,000
		9.その他(雑費)	20,000
		10.11 月 20 日までの支出(③)	612,762
収入合計 ④	1,669,132	支出合計 ⑤	1,482,762
		単年度収支 ⑥=④-⑤	186,370
		前年度繰越金 ①	683,842
		今年度繰越金 ①+⑥	870,212

(予算の解説と内訳)

1. 変則会計について

会則改正により、会計年度がこれまでの 4 月 1 日～3 月 30 日から 10 月 1 日～9 月 30 日に変更されたことに伴い、2000 年度は 18 ヶ月の変則会計となります。上記予算表では、単年度収支が黒字となっておりますが、これは変則会計に伴い、2 ヶ年度分の収入に対し、1.5 ヶ年

度分の支出しか計上していないための見かけ上の数字です。試しに、2000 年度の 11 月 20 日までの収入の半分を前年度分として除いて計算してみると 2000 年度の単年度収支は約 35 万円の赤字となります。

2. 全体会計と総務委員会会計の関係について

上記収支表は全体会計及び総務委員会会計を兼ね

たものでありますが、これは、総務委員会会計以外の会計として OB 小屋委員会会計のみしかないとから、冗長を避ける意味で、このような処理としています。即ち、総務委員会会計としては、上記表のうち、収入の部のすべて、支出の部の OB 小屋委員会へ移し替え分を除く部分となります。ちなみに、現在のところ総務委員会会計は、常任幹事会費用(会合費)も含めて管掌しております。

3. OB 会費収入について

1999 年秋回収の OB 会費はおかげさまで、約 45% にあたる 214 名の方から、会費をいただきました(平成 11 年 11 月 20 日現在)。来年秋についても同程度の 200 名の方からの会費納入を見込みます。また、会費につきましては、先日の総会に会則改正がなされ、2,000 円となっております。従いまして、会費収入は 40 万円となります。

4. 寄付金収入について

1999 年秋は皆様の多大なるご協力により、約 80 万円ものカンパをいただきありがとうございます。来年についても、上記の通り厳しい財政事情であり、20 万円程度の寄付金を戴きたく思っております。よろしくお願いいたします。

5. 会報作成・発送費について

2000 年度は会員全体に発送する会報につきましては、当該第 16 号会報及び総会の案内を兼ねた第 17 号会報の 2 号を発行の予定としております。第 16 号については、名簿も合わせ大部となるため 29 万円計上いたしますが、次号についてはなるべくコストを圧縮したいと考えております。

6. 総会開催費

2000 年の総会開催要領は未定ですが、ホテル等での開催構想もあります。いずれにせよ開催費用は参加

者による実費負担を原則とし、資料作成費、酒・つまみ代の補助として 5 万円を計上しております。

7. HP 等の調査費

現在、当会ホームページ(HP)が開設されておりますが(詳細は編集後記参照)、これは大学のサーバーを借用しており、本格運用のためには、独自のサーバーを借りる必要があります。HP 等の調査費はこのための調査を主たる目的としています。

8. スカイライン制作補助費

5 年に一度「スカイライン」が発行されますが、これへの費用補助として従前の例に倣い、10 万円を計上しております。

9. 役員等会合費

幹事会や委員会の会合は、喫茶店の会議室を利用しており、これまではその費用は役員の自己負担となっていました。これを OB 会会計で負担するため、1 回 5,000 円で 5 回会合を開催するものとして、必要な経費を計上しています。

10. 名簿管理環境整備費

会員名簿の効率的な管理のためのソフトウェア購入等を想定。

11. 企画活動費

今後、OB 会を魅力あるものとしていくために、様々な企画を立案・実施する必要があり、その為の費用です。

12. OB 小屋委員会への移し替え分

小屋の費用負担のあり方は今後の検討課題ですが、2000 年度については、一般会計より拠出することといたします。

13. その他(雑費)

香典代等の諸費用です。

II. OB 小屋委員会 2000 年度予算案

今年度、OB 小屋委員会が総会の承認を受け正式に発足しました。苗名小屋の整備・保守支援及び将来の再建の調査及び答申などの専門家活動を順次進めたいと考えます。小屋整備に関しては従来の消耗品補充に加え、保守作業向上策、アメニティ向上策(綺麗で暖かい小屋を目指して)再建基礎調査を進める計画です。今年度は以下のように考えますが、詳細は次回小屋委員会で検討・決定いたします。

総額.....	⑦ 230,000 円
(内訳) 管理費(地代 10,000 円含む)	20,000 円
修繕費積立(中期的な整備予算)50 万円/5 年	100,000 円
小屋の大きな修繕を行うことに備える準備予算(留保予算)	
小屋整備費(短期的な整備予算)	100,000 円
・小屋保守の作業性向上	
・草刈り機購入(優先事項:現役で購入する	

予定もあり、その予算配分は応相談とする)。	
・アメニティ向上(魅力ある小屋を目ざして利用率の向上を図る)	
・目止め材散布 防蟻材散布	
定期保守計画(屋根塗装費、防錆剤散布、燃料補充など年度消耗品).....	現行通り現役
再建調査費	10,000 円

(補足)小屋に関する予算は OB 会一般予算補助の他に受益者負担収入、小屋独立会計の創設など小屋の負担のありかたの議論とともに整備が必要である。またアメニティ向上策では断熱材の貼付や畳替え、発電器の設置(電動工具、掃除機、布団乾燥なども使用)、石炭ストーブの復活が考えられる。これらの実現は現予算計画では困難であるが増収活動も進める予定である。

■ 5章 ■ 会員便り

期別便り：(9期) 日渡松男、(29期) 禪 知明

関西支部便り：(2期) 宮崎 紘

シニアOB会便り：(4期) 郡司直樹

1. 9期の便り

9期は、学生時代大学紛争のまっただ中で、卒業式も無く慌ただしく卒業し30年経ちました。卒業時は、日本の高度成長時代の終わり頃で、世の中は未だ希望に満ちていた良い時代でした。その後何度かの浮き沈みを経験してきましたが、どうやら乗り切ったと思った矢先、職場では高齢者グループの仲間入りをし、リストラ対象者になり、真剣に後半生の計画を考え始めている年代です。この度、OB会報に9期の便りを載せる機会を得ましたので、現状の消息をお知らせいたします。



写真-1: 平良、尾崎、加藤、日渡、三浦

・会員消息

正・準会員17名の内馬場君が20年来行方不明で消息が掴めていません。

その他は、関東に9名、関西に3名、四国・中部・信州に各1名在住しており、鈴木君が今年6月よりポルトガルに合弁会社の社長として赴任中です。



写真-2 鈴木、上原、日渡、松川、三浦、三浦正

・会員の活動

9期の中で何らか山行を続けているのは四国の一村君、関西の松川君夫妻、関東の上原君夫妻、三浦煌太郎君夫妻(10期塩野入)、鈴木君、木下君と日渡です。

97年秋には、恵那山への山行に関西・中部・関東から久振りに10名のOB・OGが参加しました(写真-1, 2)。98年秋には、関東在住者で、丹沢の大山三峰山に登りました(写真-3)。来年には2000年紀と、上原君の100名山登頂達成を祝う記念山行を計画しています。(日渡)



写真-3: 上原、加藤、塩野入、日渡

2. 29期の便り

29期は、昭和60年(1985年)入学です。忘れもせぬ日航ジャンボ機が御巣鷹山に墜落した年であり、また、あのパース、掛布、岡田を擁する阪神タイガース優勝の年でした。そしてここから日本経済はバブルへと登り始め、29期卒業の1989年から、大学院の修士に進んだ一部の者が修了した1991年あたりはバブル絶頂期であり、私たちは世間より塔のブルの申し子狼=あまり良い意味で使われない烙印を押されることとなったのです。卒業からちょうど10年の月日が流れました。10年を機に何かやろうかとも思いますが、いつの間にか、熱血の上役(?)と優秀な後輩(?)に挟まれた難しい立場に立たされており、仕事量もかなり多く、それゆえ、同期で顔をあわせるのは冠婚葬祭の時ぐらいで、山行をともにするのは年に1回か2回か。離れているメンバーとなると、その機会もないのが現状。

29期は、当初14名でスタートしたと思います。全員男です。執行部は9名で執ることとなり、12名は連絡がつきます。前の28期と後の30期が各々15名以上の大所帯でしたので、教わることも教えることも多く、喜怒哀楽があり有意義な活動をさせてもらったと思っています。(禪)

3. 関西支部便り

「エッ! YWVOB会に関西支部ってあるの?」と思われるOB諸兄が多いと伺っていますが、これまでも部誌「スカイライン」の記念号には何度か関西支部の様子を紹介してきましたのでご存知の方もいらっしゃると思います。

関西支部の誕生は、5期のOBが卒業した1965年の秋、近畿一円、四日市に勤務していたOB8-9名が三重・奈良県境に近い赤目溪谷にハイキングかたがた集し「YWVOB会西日本支部」設立の怪気炎をあげたのをスタートに1968年2期宮崎が大阪へ再赴任した後、実質的には1969年1月からその頃関東で実施していた月例Wと同様の月例W活動を中心に関西一円在住のOB諸氏の把握と支部としての方向付けのようなことを行いその後「関西支部」としてOB総会の認知を受けたことによるものです。

'70年代前半は嘉納OB会長の大阪大学勤務や故人となった跡部さんの大阪勤務などがあり関東OB会に

代わって月例Wを継続してきました。仕事や子育てに忙しい中、家族連れで比良山中でテント合宿したり、伊吹山山頂でピバーグしたりして、母校から遠く離れた関西で数少ないOBが集まってW活動を楽しんだものです。関西には六甲山や紀泉山地、京都西山、北山、比叡、比良山地など四季折々の山行に適した所や美味しいお酒の灘、伏見、池田などがあり、OB会活動には最適などと言えるでしょう。

しかし関西在住のOBとして確認されたメンバーはOB10期生あたりの方々までで新しいOB会員の把握が出来ていないのが現状です。近々整理されるOB会の名簿を元に関西支部の名簿を整理したいと思っています。

ここ一年5期の岡本さんが東京へ、2期宮崎が富士宮へ単身赴任したり、5期諸角夫妻が京都舞鶴へ転勤また4期泉さんが関東に戻られたりして関西もチョット淋しくなっています。それだけに若いOB諸氏の把握と渡辺支部長を中心に若手OBの方々に関西支部活動を期待したいと思っています。(宮崎)

4. シニア OB 会便り(1)

平成元年からスタートした「YWV シニア OB の集い」が、昨年は10回目を記念して8月末に奥飛騨の平湯温泉平湯の森で開催された。初日は、上高地から28年間の登山禁止がやっと解除された焼岳に登る予定であったが、連発性の地震と台風接近の影響で急遽登山を中止した。前日から既に入山していた組や夜行バスなどで到着したメンバーは、予想外に天候に恵まれたので上高地散策や飛騨高山道遙に予定を変更して活動した。しかし、前日は現地へ行き帰りの交通にも支障が懸念される状態だったのでキャンセルが14名にも達して、結局参加者は46名に留まった。

恒例の宴会の翌日は道路が心配で直帰したメンバーも多かったが、残った者32名はバスとマイカーに分乗して予定通り乗鞍岳に向かった。しかし、曇平から剣が峰山頂への登山道はガスで周囲の景色は何も見えない。曇平に戻って草紅葉になり始めた自然探索路を逍遙していると、雷鳥があちこちに姿を現した。

帰りは、台風が通過した後の大阪方面に帰る4WDの諸角(5期)車は楽勝であった様だが、首都圏に向う車は中央高速道が大雨で不通という情報を信じないで突破した松本(7期)車以外は色々と迂回して関越高速道や東名高速道に廻りほうほうの体で帰宅した。

今年は1月からシニアOB会で首都圏近郊の「月例山行」を開始したところ、最近の中老年の登山ブームが影響したものか毎回20名以上が参加する盛況がずっと続いている。この詳細は月例山行会委員長の塚原(2期)さんから、次号会報の「YWV シニア OB 会だより(2)」で報告をお願いします。

今年の第11回「YWV シニア OB の集い」は、富士山麓の富士ハイツで10月23日に開催し54名が参加した。初日の山行は、A-天子ヶ岳・長者ヶ岳縦走〔リーダー：下村(7期)〕、B-毛無山周遊〔リーダー：吉野(2期)〕の2コースで、それぞれに20名と9名が参加した。Aコースには7期が8名も参加したので人数が断然多くなったが、聞いてみるとこれには深い訳があった。毛無山は7期がYWVに入部した時の新人合宿地で、7期生は皆当時リーダーを担当した5期生からボッカ訓練でひどくしごかれた辛い思い出があったので、一人もBコースには参加しなかったのが真相だそうである。

天候に恵まれて両コース共に冠雪した富士山を終日眺めながらの気分の良い山行であった上に、宿の大浴場は展望がすばらしくて、富士市街と駿河湾を見下しながら汗を流した。宴会では今回初めて「シニアOBの集い」10回参加者の表彰が行われ、次の方々表彰状と記念品のステンレス製魔法瓶を受賞した。

・初回から10回連続参加者〔5名〕

吉田輝義(1期)、吉野大次郎(2期)、谷上俊三、郡司直樹(4期)、永井紀子(6期)

・第2回目から10回連続参加者〔3名〕

菅谷光雄(6期)、八島明、下村弘道(7期)

・今回10回参加に到達した者〔4名〕

宮崎紘、斉藤彦司、北見美智子(2期)、斉藤貞夫(4期)

今年は翌11月にYWVOB総会を控えているので、宴会の席でも菅谷君からOB会事務局の改組、会則改正などの説明があり、総会への出欠返信の回収と年会費・寄付金徴集に大きく貢献した。

翌日の山行コースは富士山中腹の宝永山往復〔リーダー：池原(8期)〕で、マイカーに分乗して紅葉し始めた有料道路を富士宮口新五合目まで登った。新五合目には前日天子ヶ岳・長者ヶ岳と一緒に登ったのに富士ハイツに泊らなかった時田(5期)君が奥さん同伴で、我々を見送りに来てくれた。六合目からトラバースして火口に入り、砂礫で足下の崩れる火口壁を標高2693mの山頂まで行った。強風と中腹にかかる雲の中で、倒れていた標識を立て登頂記念の撮影をただけですぐ火口の中に引き返し、下村家特製の熱い豚汁で冷えた体を暖め昼食を食べた。(郡司)

1. 山行記録

99年も、残り僅かとなって参りました。間もなく42期が執行部を引き継ぎ、41期は第一線を退くこととなります。41期は98・99年と2年に渡って執行部を務めました。部員の極度の減少の中で運営された98年と比較しても、今年99年は何かと不運の続く、決して順調とは言い難い年でした。

新練2次合宿ではコースタイムの2倍の歩行時間を叩き出し、夏合宿では暴風雨に苦しめられ…。そんな山行の記録のいくつかを、ごく簡単に綴りました。ご笑覧頂ければ幸いです。



・5/1(Sat)～/4(Tue) 「新歓小屋合宿」

まだ雪に覆われた妙高へ向かう。笹ヶ峰で草野球を試みるも雪の深さに断念し、わざわざ日本海まで出向いて砂浜で野球をする。

・6/5(Sat)～/6(Sun) 「新練1次合宿・雲取山」

曇天で展望は今ひとつながら、雨は免れる。長い下りにバテるメンバーも。

・7/3(Sat)～/4(Sun) 「新練2次合宿・天狗岳」

北八ヶ岳の天狗岳で、歩荷訓練を行う。先発隊は至極順調に進むも、後発隊1年がバテ、コースタイムの実に2倍の時間をかけて走破。好天で眺望も良好だったが新入生はそれどころではなかったようだ。

・7/20(Tue) 「新練3次合宿・陣馬山」

今年から加わった2年の赤井が新練2次に参加できなくなったため、歩荷訓練のために急遽計画。無事終了したが、800mの山で誤ルートという不名誉を得る。

・7/27(Mon)～/29(Thu) 「夏合宿・大雪山」 8/2(Mon) 「夏PW・利尻岳」

自衛隊もエスケープするほどの暴風に、テントが潰れ、やむを得ず撤退。予定していたトムラウシには登れず。この後、PWとして赴いた利尻では天候に恵まれ、最高の眺望を得た。なお、当然ながら移動は横浜から利尻まで、全てJRの各駅停車を利用。

・8/31(Tue)～9/3(Fri) 「夏小屋合宿」

ここ数年の課題だった屋根塗りに着手。

・10/9(Sat)～10/10(Sun) 「秋PW・火打/妙高」

体育の日だけあって人出はすさまじい。高谷池ヒュッテに辿り着いたもののテントを張らせてもらえず、やむを得ず撤退。黒沢池に泊まる可能性もあったためにテント場の予約を避けたのが間違いのもとであった。

2. 部員一覧

41期から43期までの部員の一覧です。【 】内には、99年11月現在の役職を記してあります。

- | | |
|-----------------------------|------------------------|
| 41期：石川 真（工・物工・3年）【主将/保トレ】 | 新井 悠司（経営・経営・3年）【副将】 |
| 笠原 正大（教・小教育学・3年）【審査/小屋】 | 平田 明日美（工・M2）【記録】 |
| 42期：金丸 雄介（経済・経シ・昼間主・2年）【会計】 | 佐野 哲也（教人科・地球環境・2年）【遭対】 |
| 古谷 未央（工・知能物理・2年）【装備】 | |
| 43期：赤井 研樹（経済・国際経済・2年） | 小川 壮平（工・建設・建築・1年） |
| 梶ヶ谷 圭祐（工・知能物理・1年） | 片倉 健仁（経営・会計情報・1年） |
| 釘宮 穂高（経営・会計情報・1年） | |

3. おわりに

昨年の部員の数から考えれば、現在のYWVは一応の体制が整った状態であると言えます。しかし、まだ運営が不安定であることに変わりはありません。OB会には小屋の修理費の負担など、既に多大なご協力を頂いておりますが、これから先、またOBの皆様のご助力を仰がねばならない事態が発生しないとも限りません。どうか今後とも、現役部員とよろしくお付き合い下さるようお願い申し上げます。



学祭に出店したカレー店での現役の様子

編集後記

文責（ひとこと部分除く）：田村 顕洋

まずは、この場をお借りして、総務委員会よりお知らせです。

【会費等について】

- ・1999年秋は、皆様のご協力によりまして、会費約21万円(納入率約45%)、カンパ約80万円をいただきました(11月20日現在)。例年の会費納入率が20%前後だったことを考えると、驚くべき数字と言えます。本当にありがとうございました。
- ・一方、まだ半数の方からは会費をいただいております。会費未納の方は総会案内の時に同封されておりました振込用紙にて、納入をお願いいたします。(なお、現金書留等による納入につきましては、会計担当柳田までご相談ください。)

【ホームページ、メーリングリストについて】

- ・現在、YWVはホームページを開設しております。ここでは、現役やOB会の各種情報が掲載されていますので、インターネットに接続できる方はぜひ一度ご覧ください。ちなみに、OB会のページにはID及びパスワードが設定されております。

<http://www.dnj.ynu.ac.jp/~b9544063/YWV/index.html>

ID:ywv パスワード:miharukasu (いずれも小文字)

- ・また、OBを対象としたメーリングリストも運用しております。(詳しくは34期影井までご連絡下さい。)

【メールの一層の活用について】

- ・今回の会報はこうして、郵送でお届けいたしました。印刷費、郵送料等に多額の経費がかかっており、厳しい財政事情を考慮すると、メールにて会報を送信する体制に徐々に移行したいと考えております。つきましては、今後、会報等の発行物をメールにて受け取り可能もしくは、検討してみたい方は、ぜひ総務担当田村まで、ご連絡ください。送信する形式、容量等についてもご要望があればお寄せください。メールであれば、写真等もカラーでお届けできます。
- ・またこういった正式の会報以外に、メールのみで発行するメール会報も配信を予定しておりますので、配信の可否、掲載記事等ありましたら、総務担当田村まで、ご連絡いただければ幸いです。

つづいて、新しく就任した役員からひとことづつ。ちなみに、下記以外の役員の方のひとことは今回の会報に間に合いませんでしたので、次号以降に掲載したいと思っております。

- ・会長 1期 嘉納秀明
40期、500名にわたる大所帯のOB会になりました。これから会の活性化に努力する所存ですが、何よりも皆さんの心のふるさとのOB会です。楽しく有意義な会になってほしいと祈念しています。
- ・監査役 2期 吉野 大次郎
今回の会則改正で初めて監査役という役が誕生しました。今までは監査はありませんでしたが、不祥事や不正取引等はなかったと信じております。今後もそういう心配はしておりませんが、より健全な会となるべく、会計監査を中心に財政問題に取り組んでまいりたいと思っております。
- ・顧問 兼山小屋委員 8期 池原盛彦
顧問とは大所高所から意見するご意見番とのこと。はて？高い所に登るのは好きな私ですがどこまで勤まるものか。ともかく何か皆さんのお役に立てればと、まずは新山小屋構想や昔の歌集の再製などに注力しようと考えています。
- ・幹事長 29期 禅 知明
新たな体制となったOB会、運営スタッフが増えましたが、盛り上げる主役は会員の皆様ですので、楽しい会にしてゆくとともに、会員相互の連絡、協力も、OB会レベル、個人レベルで延伸されゆくことを願っております。
- ・常任幹事 兼 OB 小屋委員長 30期 笹倉 実
すべてのOB会業務を禅氏(29期)と数年間YWVOB会事務局長として勤めてきました。3年越しでOB会の新体制作りを進め、予想以上の成果をあげたと思います。今後はさらなる会の基盤整備とともに小屋問題にも本格的に取り組みたいと思っております。皆さんご多忙とは思いますが、活発な活動を期待いたします。
- ・総務委員長 34期 田村 顕洋
はじめまして、という方も多いかと思います。今回、会報の編集を担当しましたが、基本的に総務担当とい

う名の何でも屋ですので、OB会に関して何かお気づきの点ありましたら、どしどしメールでお寄せください。これからは、皆さんのニーズにお応えできる体制を作っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

・総務委員（名簿担当）渡邊 隆史

名簿の改訂を担当しました。作業は大変でしたが、この名簿を見て皆さんが、旧友と連絡をとりあってくれたらと思います。今後ともご協力お願いいたします。

さて、会報復刊号、いかがでしたでしょうか。文字が多く、また、字も細かいと感じられたかもしれません。これは、載せるべき記事がたくさんある一方で、経費節減のため、紙数を減らそうとした結果です。読みづらかったら、ごめんなさい。今回、予想以上に経費がかかってしまったため、次号はどのような体裁になるか未定ですが、今後とも「読んでいただける会報」を目指してがんばりますので、よろしくお付き合いください。また、掲載記事のご提案も、随時、お待ちしております。

さて、来年はいよいよ2000年です。20世紀は戦争の世紀とも呼ばれますが、21世紀はどんな時代になるのでしょうか・・・そんなことを考えつつ、

皆様、よいお年を



総会での全体写真

横浜国立大学ワンダーフォーゲル部OB会 会報 No. 16 1999年12月1日発行
編集担当： 田村 顕洋

カンパ協力会員氏名一覧 (H11.12.1現在)

期	氏名	期	氏名	期	氏名	期	氏名	期	氏名	期	氏名		
1	嘉納秀明	4	高田良子	6	松本君子	8	武藤直子	16	佐藤善樹	22	寺島美佐緒	30	宮崎英樹
1	田上栄一	4	原隆子	6	永井紀子	8	楠幹子	17	梅野匡俊	23	伊藤忠彦	31	伊藤明広
1	佐藤文雄	4	齊藤貞夫	6	古荘敏子	9	三浦煌太郎	17	木村善行	23	中戸康文	31	岡野正彦
1	吉田輝義	4	横山幸子	6	清水宣次郎	9	日渡松男	17	石川幸嗣	23	吉田豊	31	松田哲治
1	松本正雄	4	泉充子	6	岡田光豊	9	上原昌弘	17	葛塚真紀子	24	北沢浩一	33	合掌顕
1	望月元雄	4	大黒美代子	6	岡田美奈子	9	上原優子	18	向井良作	24	岡田拓	33	木村堅一
1	藤岡輝生	5	谷合成人	6	桜井素子	11	大森常明	18	植草慶一	24	岡田雅代	33	原倫江
1	桑原忠雄	5	高須梓	7	八島明	11	榊原福司	18	勝山謙太郎	24	大津真嗣	33	福島弘之
1	河野哲	5	亀井良英	7	服部七郎	11	丹羽守裕	18	山口貢三	24	酒井文隆	33	藤井謙一郎
2	吉野大次郎	5	亀井昭子	7	小林秀臣	11	稗田省三	18	福田敦子	25	浜崎信行	33	横井英記
2	塚原伸一郎	5	金子洋吾	7	小林桂子	11	安藤貞利	18	浜田淳	25	柏木修一	34	小野恵美子
2	藤林徹	5	早藤哲夫	7	井上義雄	12	山川隆	18	塩川朋久	25	野呂敬子	34	古平晚子
2	宮崎祐	5	時田澄男	7	下村弘道	12	榎本吉夫	19	磯尾典男	25	古川圭一	34	田中義人
2	渡邊一良	5	中村義勝	7	松本弘道	12	左藤清	19	井上晃	25	永田武	34	田村顕洋
2	岩上克尚	5	中村栄子	7	橋本明美	13	中村友二	19	海野和明	28	楠本なごさ	34	松下淳朗
2	斉藤彦司	5	羽島雄男	7	北村薫	13	村松清一	19	野住智子	28	直井忍	35	富澤理子
2	北見美智子	5	諸角壮次	7	加納和子	13	海保茂道	19	中島輝夫	28	直井朋子	35	土方康裕
2	多田裕子	5	諸角詢子	7	久保木克子	14	鶴飼紀夫	19	小松真弓	28	和多治	35	渡辺浩志
2	宮本高子	5	岡本幸雄	7	南雲和江	14	鈴木道夫	19	笛木久栄	29	中嶋淳一郎	36	富倉登
3	渡辺享英	6	秋山勉	7	白神逸夫	14	小口雄平	19	戸田邦子	29	福島昌彦	36	渡邊隆史
3	江崎伴雄	6	石井靖政	7	菅谷美智子	14	狩野一子	20	作山栄一	29	松本和之	37	伊藤栄二
3	塩谷佐紀子	6	蓮尾尚志	8	飯村治雄	14	上野節子	20	向井恵子	29	榊知明	37	堀越壮平
3	森井栄子	6	近藤博昭	8	岩科健一	15	中村真知子	21	鳥井正志	30	麻生敬介	37	柳田史昭
4	谷上俊三	6	蛭島英二	8	溝田隆之	15	牛窪尚	21	藤倉大介	30	笹倉実	38	伊藤剛司
4	郡司直樹	6	菅谷光雄	8	上島雄助	15	西浦章子	21	溝畑晃道	30	下出直孝	38	細谷慎一
4	永田明彦	6	久野秀晴	8	池原盛彦	15	中島一夫	21	長尾晴美	30	竹澤智		
4	永田多恵子	6	原隆	8	田中稔	16	池谷文明	22	寺島一希	30	服部宣久		